

特集

JR北広島駅西口開発は日本エスコン主導

日ハムBPPに振り回される 北広島市民のモヤモヤ



エスコンフィールド(日ハムBPP)完成予想図▶

2023年春の開業を目指す北海道日本ハムファイターズの新本拠地となる北広島市の「北海道ポールパークFビレッジ」(通称日ハムBPP)。JR北広島駅前の整備や新駅建設構想が発表される中で、北広島市民に「モヤモヤ感」が広がっている。人口6万人のまちの財政規模で大丈夫なのか、自然環境の悪化や交通渋滞が心配――

など不安視する声が少しずつ大きくなりつつある。

(ジャーナリスト 黒田 伸)



▲日本エスコンが大型ビル建設などを計画している北広島駅西口

BPP命名権獲得の狙い

北広島市の上野正三市長は20年12月18日、JR北広島駅西口周辺の再開発計画案を発表した。西口前の市有地にホテルなどが入る地下1階、地上18階の複合ビルを建設し、1階部分には新球場へのシャトルバス発着場を設けるほか、分譲マンションの整備も進める大規模な構想だ。

記者会見で上野市長は、「多くの市民の皆様から駅前を何とかしてほしい、と要望がありました。市民が集い、市

外から新球場に訪れる人たちを歓迎する施設になればいいと思う」と話した。

計画を具体的に進めるのが、同市が再開発事業の優先交渉権者に選んだ不動産業の日本エスコン(東京・大阪)だ。

本誌は、BPPの命名権を同社が獲得した直後の19年12月、同社が手掛けた近鉄大阪線・大和高田駅に直結する商業施設の開発例などを現地取材。駅から町全体の商業、住宅施設まで総合的に開発する

新しいタイプの大阪発祥の不動産デベロッパーであることなどを紹介した(本誌20年4月号)。

北広島駅西口の18階建ての複合ビルは24年度末、シャトルバス発着場は22年度末の完成を目指すという。

複合ビルにはホテルのほか飲食店やイベントに活用できるスペースなどを確保し、2階にはJR北広島駅直結の歩行者用デッキをつくる。木材を活かした

デッキは、日本エスコンの最も得意とするデザインで、大和高田駅など関西圏で数カ所の成功例がある。また、ビル建設予定地西側の市有地5500平方メートルには10階建ての分譲マンションや保

育所を建設するという。同市は21年3月に同社と協定を結んだあと、同社とともに市民説明会を開き、市民から広く意見を聞いて年度内に具体的な整備計画をまとめる。総事業費は明らかにしていない。

発展の起爆剤になるか

北広島駅西口は、大型店の東光ストアと、コープさつぽろが店舗を構えているものの、低層の雑居ビルが4棟ほど建つだけで、ここ20年来、町の玄関口としては物足りない風景が続いている。

ど前に行われた。その後、少子高齢化とともに客足が遠のき、飲食店などの撤退が相次いだ。活性化は長年の課題で市民から「何とかならないのか」という声が上がっていた。ただ、駅前がこれまで閑散としていた理由

西口開発は北広島団地地区の宅地造成と同時、50年ほどは北広島団地地区の宅地造成と同時、50年ほどは北広島団地地区と



▲近鉄大和高田駅周辺開発は日本エスコンが手掛けた(2019年12月撮影)



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<http://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)